

## 第5学年 社会科学習指導案

日時 平成18年11月22日(水)5校時

児童 5年1組 男13名 女11名 計24名

指導者 鷲盛 隆

### 1 単元名 環境を守る

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、自動車工場の学習の中で「環境にやさしい工場」をめざして工夫をしている様子を学習している。そこでは、排水処理施設を作ったり、リサイクルを考えた自動車作りを行っていることを学んできた。児童の中には、工業は自分たちの生活を豊かにしてくれ、自然環境を考えて上手に工業生産を営んでいるというプラスのイメージが強い。それは、児童の生活環境の中に人間の生活や健康を脅かすような公害がほとんどないために、日常生活の中で公害を意識する場面もほとんどないからだと考える。また、水俣病など4大公害についても、テレビ・新聞などで見たり聞いたりしたことがある児童はいるが、その公害が人々にどのような影響を与えたのか具体的に知っている児童はいない。

そこで、本単元の指導を通して、工業の発達によって生活が便利になってきた反面、環境を壊してしまい公害を出してしまった事実をとらえさせ、公害によって苦しむ人々の気持ちを共感的にとらえさせると共に、公害に対して自分たちに何ができるのか考えさせていく必要がある。

#### (2) 教材について

本単元では、工業の発展のかけで発生した公害について取り上げ、その原因や現状について学習し、そうした公害から国民の健康や生活環境をまもるために様々な取り組みが行われていることを理解させることをねらいとしている。また、公害の防止のために、工場、国、地方自治体の対策の他に、自分たち一人一人が身の回りの環境や生活をふり返り、公害を防ぐために気をつけようとする態度を育てることもねらいとしている。

#### (3) 人権教育の観点から

人権理解にかかわって

本単元では水俣病を公害の具体例として取り扱い、命の大切さや基本的人権を尊重するとはどういうことなのか考えさせたい。

工場がもたらしたこの病気は、多くの人々の努力によって改善されてきたわけであるが、改善されるまでには、病気にかかった人への差別や無視などがあり、基本的人権を奪われたという事実もあった。そこで、公害により生きる権利をも奪われてしまった人々の長い闘いの歴史を取り上げることににより、水俣病になった人々がどのような扱いを受けたのか、水俣病はどのように解決したのか学ばせていきたい。そして、その学習を通して、命の大切さやどんな人にも等しく生きる権利があるということを考えさせていきたい。さらに、二度とこのようなことは繰り返してはいけないということ、そうするためには自分たち一人一人の行動にかかっているということに気付かせていきたい。

育てたい力について

「思考力・判断力」にかかわって

公害が進んだ背景と被害にあった人たちの様子から、どんな人にも生きる権利があり、どんな人にも同じように接していかなければいけないという考え方、命はなによりも大切であるという考え方を持たせたい。そして、自分たち一人一人が公害をくり返さないように、環境を考えた暮らしをしていかなければならないと思う心を育てていく。

「受容力」にかかわって

様々な場面でグループでの話し合いをさせたり、振り返りの場面では今日の学習で考えたことを交流させたりし、それぞれの考えの違いや良さに気づかせ、お互いを認め合うようにしたい。

また、環境問題を学習することを通し、環境をまもるためには、一人一人お互いが気をつけていかなければならないこと、この素晴らしい環境はみんなの努力のうえに成り立っていることに気づかせたい。そして、環境を守る努力はみんなの命を守ることにつながるのだという考えを育てていく。

「表現力・行動力」にかかわって

自分たちで環境をまもる努力はできないか考えさせ、一人一人が環境をまもるために行動できるようにさせたい。具体的な行動としては、家で使っている洗剤の量を少なくしてくれるようにたのむ新聞を作る。大槌川のゴミ拾いをする。校内に学習したことを広め、リサイクルなど環境問題を考えてくれる人の数を増やす。などが挙げられる。

(4) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、身近な地域の事例を取り上げて具体的に学習を進めていくことが望ましいと思われるが、身近に公害という素材がないことから、4大公害の中から人間の健康・生命が奪われ、その因果関係がはっきりしている水俣病を取り上げ、公害の実態と原因を具体的にとらえさせたい。また、単に実態や原因をとらえさせるだけではなく、原因が分かるまでの経緯や人々の努力、患者の家族や地域住民の様子や気持ちを調べさせ、公害の恐ろしさをしっかりとらえさせたい。

また、水俣病の学習においては、「排水を続けた会社が悪い」という意識を持たせるだけでなく、当時の工業生産の考え方やそれを変えていった工場や国、県、地域住民が一体となって環境を守るために努力していることをとらえさせたい。その中で、単に「公害病にかかった人はかわいそうだ」という意識から「自分たちもやれることから何かしていこう」という意識まで高め、一人一人が環境のことを自ら考えて生活していくことができるようにしていきたい。

3 単元の目標

公害について調べ、公害の広がった背景や公害の現状、被害を受けた人々の苦しみを考えると共に、公害防止に努力する国や地方自治体、工場などはたらきを理解することができる。身の回りについての公害について調べ、その公害を防ぐためにできることをさぐり、進んで環境を守っていこうとする意欲を持つことができる。

4 単元指導計画(10時間)

時数	学習活動	評価規準
1	オリエンテーション 公害について調べたいことを まとめ学習計画を立てる。	<関> ・進んで学習計画を立てることができる。(発言・ノート)
2	水俣病の写真や資料から、被害者の様子を話し合い、原因について考える。	<関> ・水俣病に関心を持ち、意欲的に調べることができる。(態度) <思> ・いろいろな人の立場を考えながら水俣病について考えることができる。(発言・ノート)
3 (本時)	公害に対する住民の取り組みについて調べ、水俣病がどのように解決したのか学習する。	<関> ・水俣病の発生の原因や工場の態度、公害への取り組みの様子を調べることができる。(態度) <思> ・裁判は終わっても水俣病はまだ終わっていないことを考えることができる。
4	水俣市の今はどのような状態なのか調べる。	<知> ・水俣市や熊本県などがどのような努力をしたのか調べ、分かったことをまとめることができる。(発言・ノート)
5	日本の公害(四大公害病)資料などから、全国各地の公害を調べ、公害の広がった背景や公害の現状をとらえる。	<関> ・日本全国で発生した公害について関心を持ち、意欲的に調べることができる。(態度) <思> ・工業と工業生産の関係について理解しそれについて自分の考えを持つことができる。(発言・ノート)
6	身のまわりの公害について調べ、工場以外の公害(生活排水など)もあることに気づく。	<関> ・身のまわりにはどんな公害があるのかについて関心を持ち、意欲的に調べることができる。(態度)
7	水を汚している原因をしらべ、自分たちの生活排水が汚れている原因となっていることに気づく	<関> ・身近な川(大槌川)の汚れの原因について関心を持ち、意欲的に調べることができる。(態度)
8 9 10	公害を防ぎ、環境を守るために自分たちができることは何かを考え、行動する。	<思> ・どんな方法で伝えるかについて自分なりの考えを持つことができる。(発言) <技> ・環境を守ることの大切さを工夫して表現することができる。(作品・行動)

## 5 評価規準

観点	A 十分満足	B 概ね満足	Cへの支援
社会的事象への 関心・意欲・態度	公害について関心を示し、積極的に環境を守っていかうとする意欲を持ち、態度にあらわすことができる。	公害について関心を示し、積極的に環境を守っていかうとする意欲を持つことができる。	公害について皆の話し合いから自分の考えを持ち、行動できるようにさせる。
社会的思考・判断	公害の広がった背景や公害の被害を受けた人々の苦しみを考えることができ、公害は自分たちの生活と密接なつながりがあることに気づくことができる。	公害の広がった背景や公害の被害を受けた人々の苦しみを考えることができる。	写真や手記、なげかけられた言葉などをもとに公害の被害にあった人々の辛さを考えさせる。
観察・資料活用の 技能・表現	いろいろな資料について自分の考えをもちながら進んで調べ、正しく読み取ることができる。	いろいろな資料を正しく読み取ることができる。	資料の着目する視点を教え、資料から何が読みとれるか考えさせる。
社会的な事象についての 知識・理解	公害防止に努力する国や地方自治体、工場などの取り組みをそれぞれの立場から理解することができる。	公害防止に努力する国や地方自治体、工場などの取り組みを理解することができる。	公害防止に努力する国や地方自治体、工場などの取り組みをそれぞれまとめさせる。

## 6 本時の指導 ( 3 / 10 )

### ( 1 ) 目標

水俣病の発生の原因や工場の態度、公害への取り組みの様子をとらえることができるようにする。

### ( 2 ) 人権教育の観点から

本時では、命の大切さを児童に考えさせたい。水俣病発生原因は窒素工場の廃液が原因であり、窒素工場はそれが分かってからも廃液を流し続けた。それによってどのような被害があり、患者はどのような生活を送らなければならなくなったのか児童にとらえさせ水俣病の恐ろしさや悲惨さを感じ取らせたい。

展開の後半では水俣病裁判について患者の闘いについて学習する。そこでは裁判の結果だけでなく裁判までに患者がどんな思いで闘ってきたのか考えさせたい。患者が基本的人権を奪われ差別された例にも触れ、写真の涙の意味を考えさせたい。

#### 命の大切さを考えさせる場面

- ・窒素工場が原因が分かってからもその有害性を隠して廃液を流し続けた事実をとらえさせ、人命よりも工業の発展を重んじた時代もあったという事実を受け止めさせ、それは間違いであることを理解させたい。
- ・水俣病は裁判により勝訴して賠償金がもらえたが、病気の痛みは続いている事実をとらえさせ、命の重さはお金では解決することが出来ないという考えを持たせたい。

(3) 展開

段階	学習活動	予想される反応 指導上の留意点・支援( )	評価( )・資料 人権教育の観点( )
導入 7分	<p>1 水俣病患者の様子について振り返る。</p> <p>2 学習課題をとらえる 水俣病はどのように解決されていったのだろうか。</p>	<p>患者の写真を提示し、水俣病の症状を想起させる。 患者の数と命を奪われた人の数を提示し、病気の深刻さを分らせる。</p>	<p>・資料(写真) ・水俣病患者の様子 ・資料(表) ・水俣病患者の数と死者の数</p>
展開 30分	<p><b>自ら考える場</b> 3 住民の取り組みと工場側の対応について調べる。</p> <p><b>互いに認め合う場</b> 4 調べたことを交流しあい、まとめて発表し、それをもとに話し合う。</p> <p>5 水俣病は解決したのだろうか考える。 「裁判に勝ったのに泣いているのはどうしてだろう。」</p>	<p>住民の取り組みの歴史と工場側の取り組みの歴史を班で選択させ調べさせる。</p> <p>住民の取り組み ・初めは伝染病として差別を受けた。 ・工場の排水が原因であることが分かった。 ・裁判で工場を訴えた 工場への対応 ・排水が原因だと分かってもすぐに止めなかった。</p> <p>工場の排水が原因と分かって、なぜすぐに改善されなかったのかを中心に話し合いをさせ、工場は命より利益を追求していたのだということをつかませたい。</p> <p>裁判までの長い闘いのことと、賠償金が手に入っても命はもどってこないことをつかませたい。 長い闘いとは具体的にどのような闘いだったのか、患者にあげせられた言葉や仕打ちを資料で紹介し涙の意味を考えさせたい。 裁判によって勝ったときの気持ちの手記を読んで、裁判は終わっても水俣病は終わっていないことを考えさせたい。</p>	<p>・水俣病への取り組み資料など ・工場側の取り組み資料など</p> <p>自分の調べたい方の取り組みを調べることが出来たか。 (調べ活動・ノート)</p> <p>工場側の意見に対して、住民の立場で人々の気持ちを考えさせる。 (思考力・判断力)</p> <p>・資料(裁判写真) 勝訴の住民の表情など</p> <p>裁判は終わっても水俣病はまだ終わっていないことを考えることが出来たか。 (発言・ノート) 裁判は終わっても水俣病の患者の苦労や苦しみはまだ終わっていないことを考えさせる。 (思考力・判断力)</p>
終末 8分	<p>6 本時のまとめをする。 水俣病の住民は長い年月をかけて会社と闘い、会社の責任として認められたが、病気の苦しみは今</p>		

	<p>も続いている。</p> <p><b>学習を振り返る場</b></p> <p>7 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習を通して感じたことや、考えたことをまとめ、それを交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣病患者が長い間苦しんできたことが分かった。裁判に勝っても体はもとに戻らないので辛いと思う。</li> <li>・病気なのに差別されたり、悪口を言われたりかわいそうだった。どんな人にも差別しないで生活したい。</li> </ul>	<p>学習を通して差別や偏見を受けた人々の悲しみについても一度考えさせる。(思考力・判断力)</p>
--	--	--	--

(4) 評価

水俣病の発生の原因や工場の態度、公害への取り組みの様子をとらえることができたか。

7 板書計画

